
第4回島津由乃の人生相談室～ETM会誕生秘話

紅い稲妻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第4回島津由乃の人生相談室〜ETM会誕生秘話

【Nコード】

N9385I

【作者名】

紅い稲妻

【あらすじ】

前回同様のコメディーです。

是非ともご堪能下さいまし。

前回は何かと先代紅薔薇に振り回された由乃だが、懲りもせず今日もスタジオに来ていた。

部活と山百合会との兼合いもあり、中々出番がなかった。

因みに一番出ているのが祐巳で、天然な受け答えが花寺の生徒にも受けていた。

その次に志摩子で、相変わらずブラックな受け答えを続けていた。

由乃は多忙な訳で出番が少ないが、意気込みだけは誰にも負けないでいた。

今日のOPは必殺仕事人のテーマが使われていた。

いつものように元気良く挨拶すると、早速電話に出た。

「もしもし」

「はーい、由乃ちゃん、元気にやってる？」

条件反射の如く由乃は電話を切る。

だが、回線はつながったままだ。

思わず菜々がいる方を睨むが、本人は笑ったままだ。

「何してんのかしら？」

「何でもあります。江利子さま」

「そうかしら？」

「そうですとも！」

思わず冷や汗をかく。

「ところで、様子に番組乗っ取られそうになったって、ホントなの？」

その一言にブチ切れそうになるのを堪えた。

「大丈夫ですわ！それより何か用がないのなら、切って頂けませんか？後がつかえてますので」

「あー、そうだったわ！忘れるとこだったわ！」

忘れる用なら電話すな！

思わず心の中でそう叫んでいた。

「とっても素敵な彼がいるのは知ってるわよね。彼と中々先に進めないの？どうすれば良いかしら？」

そんな事、テメエで考えろ！

と叫びたいが、そこはリリアン在学中だけに言えない。

年功序列の上に上下関係が厳しい。

それにこの番組を外部の人間も聞いている。

さすがの由乃もリリアンのイメージを潰す行為はできないでいた。

既に潰して来たが本人に自覚は全くない。

だが、これは絶好な機会だと由乃は思った。

ここで今まで積もりに積もった恨みを晴らす絶好の機会だと考えた。

「こんな簡単な事も解らないなんて、江利子さまらしくないですわ

！オーホホホホッ〜〜〜」

と豪快に笑う。

「そうね」

と何故か余裕だ。

「でね、令に聞いてみたけど、お姉さまと言って、号泣してしがみ

つくばかりなの」

ブチッ、由乃は切れた。

そんな話聞いてない。

「で、今や立派な黄薔薇さまの由乃ちゃんなら解るかな？なんて思ってみた訳よ」

嬉しそうに話す江利子に激しく敵意を抱く。

だが、考えようによっては、これは千載一遇のチャンスではないか？！

大好きな令ちゃんを独占できる絶好の機会だ。

あの凸が熊に熱を上げていてくれたら、こっちはこっちで一安心だ。ならば、

「江利子さま、それでしたら、先ずは、深夜、山辺さんのご自宅に夜ばいをかけます。そして、ご自身が全裸になって、ピィ〜〜〜」

して、それで、ピィ〜〜〜すれば、見事に解決です。深夜ですから、良い子のお子様はスヤスヤしてますし、完璧です」と物凄い力を込めて話す。

「あつ、言われてみれば、それもそうね。でもねえ、うちの男共が見張ってるのよ！交代で、一晩中」

チツ、どうしようもない野郎共だ。

だが、人間悪知恵が働く時程、頭の回転はすこぶる良くなる。

「だったら、江利子さま、特上の薬がありますので、いかがですか？仕込み方は夕食時に使えば問題ありません。一晩グッスリでできます」

「そっかあ、うっかりしていたなあ〜！有難うね」

「いえいえ、」

もう二度と私と令ちゃんの前に現れんなよとは口にできないが、電話が終わると、由乃はよっしゃ〜〜！と拳を突き上げた。

これで、由乃と令の生活は平穏に過ごせると思った。

気分良く番組を終えた由乃だが、このスタジオに伏兵がいるとは気づかなかった。

その日の晩、江利子は家族に手作りの晩飯を食べさせるが、逆に江利子がスヤスヤする羽目になった。

その前に、鳥居家に一本の電話が令から江利子パパに入っていた。

由乃のラジオ番組での事を全て聞いたエリりんパパは、息子達に事態を知らせた。

そうして令から解毒剤を譲ってもらい、鳥居家の男共は無事だったのである。

更に、令から渡されたお茶受けのクッキーを江利子に食べさせた。

これにも、実は別の強力な薬が入っていて、この薬で江利子は夢の世界に沈んだ訳だ。

勿論、男共はこの薬の解毒剤をもらっていた。

で、実は令なのだが、菜々から全てを聞いていたので、すぐにエリりんパパに連絡を付けた訳である。

もし、江利子がめでたく熊とハッピーになれば、意気消沈した令を由乃が見逃す訳がない。

となると、令と一対一で由乃の取り合いとなる。

菜々にすれば、楽しいお姉さまを令と真っ向から取り合いになるのは避けたかった。

何せ、まだ剣道の實力では大人と子供の差がある段階で、真っ向勝負は避けたいとこだ。

そこでこれを機に奇妙な同盟が結ばれた。

エリりんの貞操を守る会が結成された。

略してETM会である。

鳥居家男軍団に令と菜々、そして、祥子である。

ここで何故祥子なのかだが、実は秘かに祥子に密告があったのだ。

由乃が祐巳を狙っているという噂が流れた。

最初はデマだと見ていたが、色々調べると事実らしかったので、彼女も参加したのである。

これには菜々と令が喜んで協力した。

こうして訳の解らない人達の同盟ができた。

また翌日、凸が由乃にはめられたと思い、リリアンに殴り込みをかけたのは言うまでもないだろう。

追い回されている由乃を見て、嬉しそうに笑う菜々がいた。

終わり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9385i/>

第4回島津由乃の人生相談室～ETM会誕生秘話

2010年10月20日19時57分発行